

## 平成 27 年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市民ネット・むろらん
議員名	水江一弘・児玉智明・佐藤潤・小田中稔・高橋直美・立野浩靖
調査実施年月日	平成 27 年 7 月 1 日
調査先 自治体名等	石川県小松市
調査項目	「定住促進支援制度」「空き家・空き室バンク」「サイエンスヒルズこまつ」について
調査目的	本市に於いても取り組みを進めている、定住促進策と空き家・空き室バンクについて、その運用方法と課題点。及び環境科学館建設にむけた現地調査。
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口：108,480 人(H27. 4. 1現在) 行政面積 371.05 km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容</p> <p>まちの元気には人の定住、人口増加が欠かせないとして小松市では、「小松市定住促進支援制度」を創設し、「住みたい」「住んでよかった」と思える魅力あるまちづくりを目指した取り組みを進めている。市外からの転居には「ようこそ小松定住促進奨励金」、そして対象となる分譲地購入には「住まいる小松奨励金」、さらに3世代が同居または近居する場合には「3世代家族住宅建築奨励金」が用意されている。また、住宅建築地域を限定した、「まちなか住宅建築奨励金」、「飛行場周辺地区居住環境整備助成金」、「農山村住宅建築奨励金」などの制度もあり、それぞれが併用可能となっている。しかし、これらの制度は平成29年3月をもって終了する。また、「空き家・空き室バンク」では「空き家有効活用奨励金」と「空き家有効活用家賃補助金」を設けて、空き家を賃貸住宅として貸し出す際、貸主側へは修繕費用の一部を助成し、借主側へは家賃の一部を補助している。また、周囲に危険を及ぼす恐れのある空き家を診断し、市の不良度測定基準で100点以上のものを「老朽危険家屋」の対象としている。その中で一定の基準を満たす物件は、「老朽危険空き家・跡地活用事業」として、市が所有者から寄付を受け、家屋を解体した上で土地を、町内会等で管理・活用するか、または売却することが検討されている。なお小松市では国の法律が整備されたのちも、条例を廃止することなく運用する方針となっている。</p> <p>「サイエンスヒルズこまつ」は現地視察を行い、本市が図書館との合築を検討している環境科学館についての方向性を探ってきた。展示は各企業が担当し、体験型が基本となっている。この施設の大きな特徴は、日本最大級のドーム型3Dスタジオで、4Kプロジェクターを使用した3Dシアターを備えていることである。</p>
感想 (まとめ) 本市へ生かせること 等、	日本創生会議が高齢者の移住先として本市に優位性があるとの報告を出したが、人口減少と少子高齢化を食い止める処方箋は見当たらない。しかし一定程度の都市規模を確保しなければ経済だけではなく、行政サービスを維持することも難しい。人口定住対策は地方都市間で不毛な争いを引き起こすとの懸念も指摘されているが、今手を打たなければ将来に禍根を残すことになる。一朝一夕に結果がでるものではなく、長い取り組みが求められている。他都市の取り組みを参考にして、良いものは積極的に取り入れるべきと考える。

感想（まとめ） 本市へ生かせること 等、	